読売新聞（2007年1月28日付け）

喜多方のわき水 戦前の半数以下

NPOが調査中間報告

飯豊連峰などの山々に囲まれた喜多方市のわき水や水路を街づくりに生かそうと調査を行っている福島大の柴崎直明教授らが27日、喜多方市内で調査の中間報告を行った。

多分野にまたがる課題を産学官で研究するNPO法人「超学際的研究機構」が昨年7月、柴崎教授を座長にチームを発足させ、区長へのアンケート調査や現地調査を行ってきた。

柴崎教授は「地下水のわき出る場所が戦前と比べ、半数以下に減り、街に張り巡らされた水路も消えていった」と指摘。消雪用井戸が設置されるなど地下水のくみ上げ量が増えたことや、車社会の訪れとともに道幅を狭める水路にふたをするようになったことが原因としたうえで、「まずは保全、回復しなければならない」と述べた。そのためには水路に名前をつけて市民に親しみを持ってもらったり、地下水位情報を発信したりするなどの手段があるとした。

調査は3月まで行い、山形県金山町や福井県大野市などの先進事例を参考に提言を整理する。